

豪雪とは

- 1961年大雪で各地に被害あり、マスコミが「豪雪」の用語を初めて使う。豪雪が災害と認められた「災害対策基本法」が制定される。
- 1962年に制定された「豪雪地帯対策特別措置法」が公式用語としての初見。
- 30年以上の累年平均積雪積算値が、5,000cm day以上の地域を豪雪地帯、15,000 cm day以上を特別豪雪地帯とした。（国土の52% 人口の18% 2千万人）
- 1963年に北陸地方を中心に大きな被害があった大雪を気象庁が「三八豪雪」と名付け、以来「豪雪」は気象用語として定着した。

雪国のくらし 戦後の対策

- 寒冷地手当支給法
- 平衡交付金
- 1951年 積雪寒冷単作地帯振興臨時措置法
(s26年 積寒法)
- 1956年 積雪寒冷特別地域における道路交通確保に関する特別措置法(s31年 雪寒法)
- 1962年 豪雪地帯対策特別措置法
(s37年 豪雪法)

沢内村の雪に関連する出来事

1763年 高橋子績「沢内風土記」を著す 「天牢雪獄」

1945年 大雪3.4m記録 s20

1951年 積雪単作農業振興計画を作成 s26

1957年 深沢氏村長となる s32

冬期交通確保にブルドーザー除雪開始

1961年 16年ぶりの大雪3.3m記録 s36

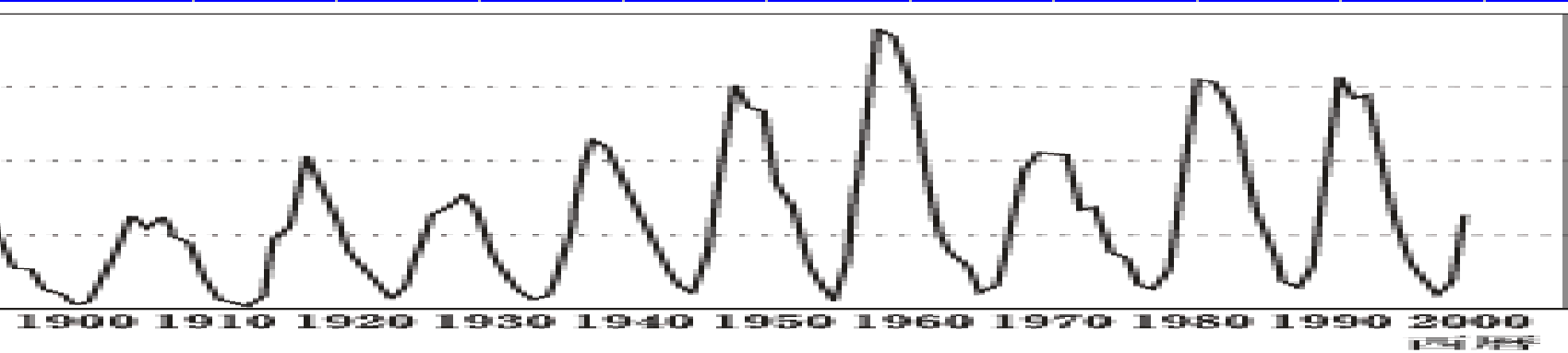
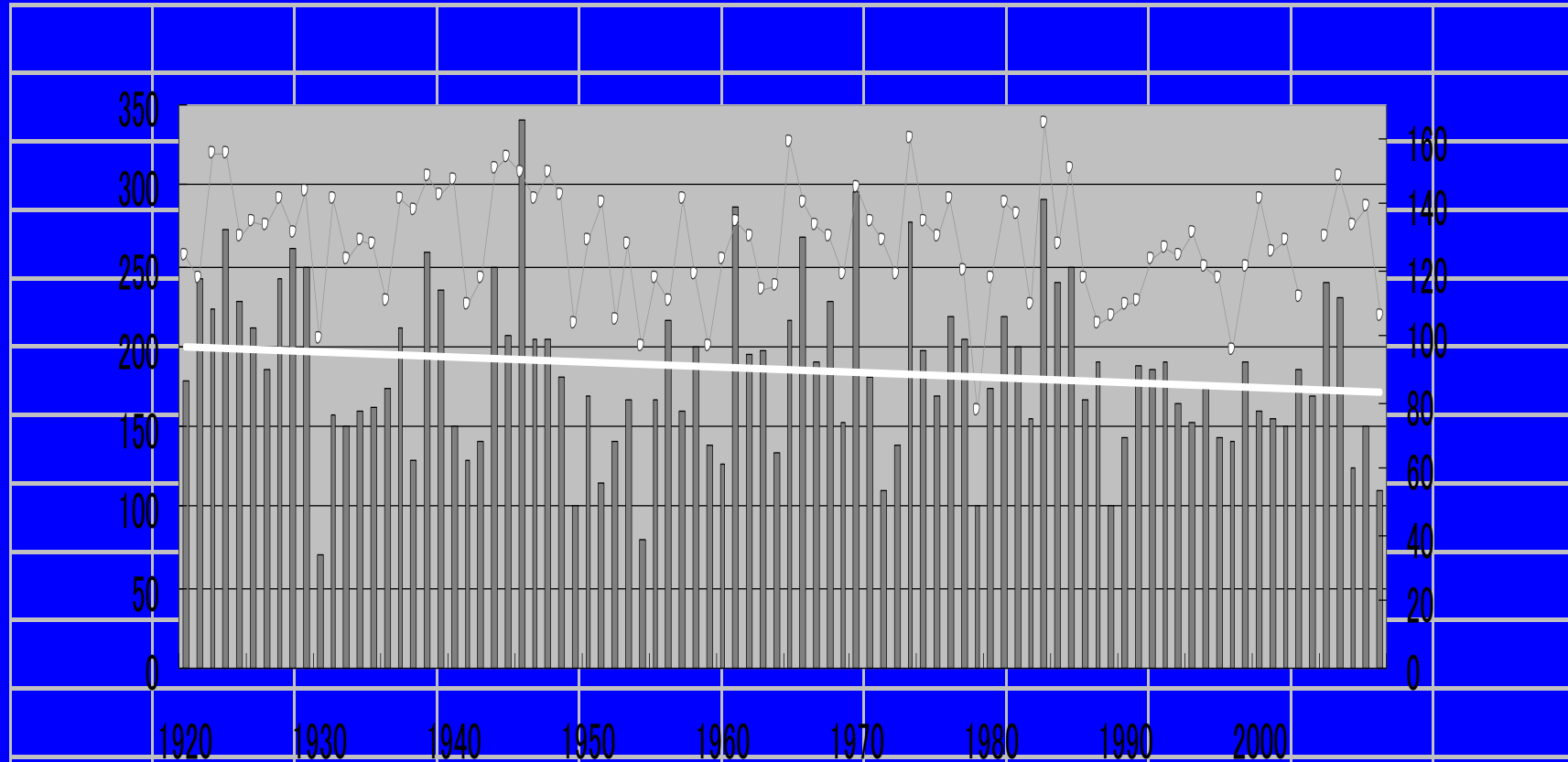
1963年 豪雪突破、盛岡一湯本定期バス開通 s38

1965年 春の豪雪3.7m記録 稲苗を県内各地に委託 s40

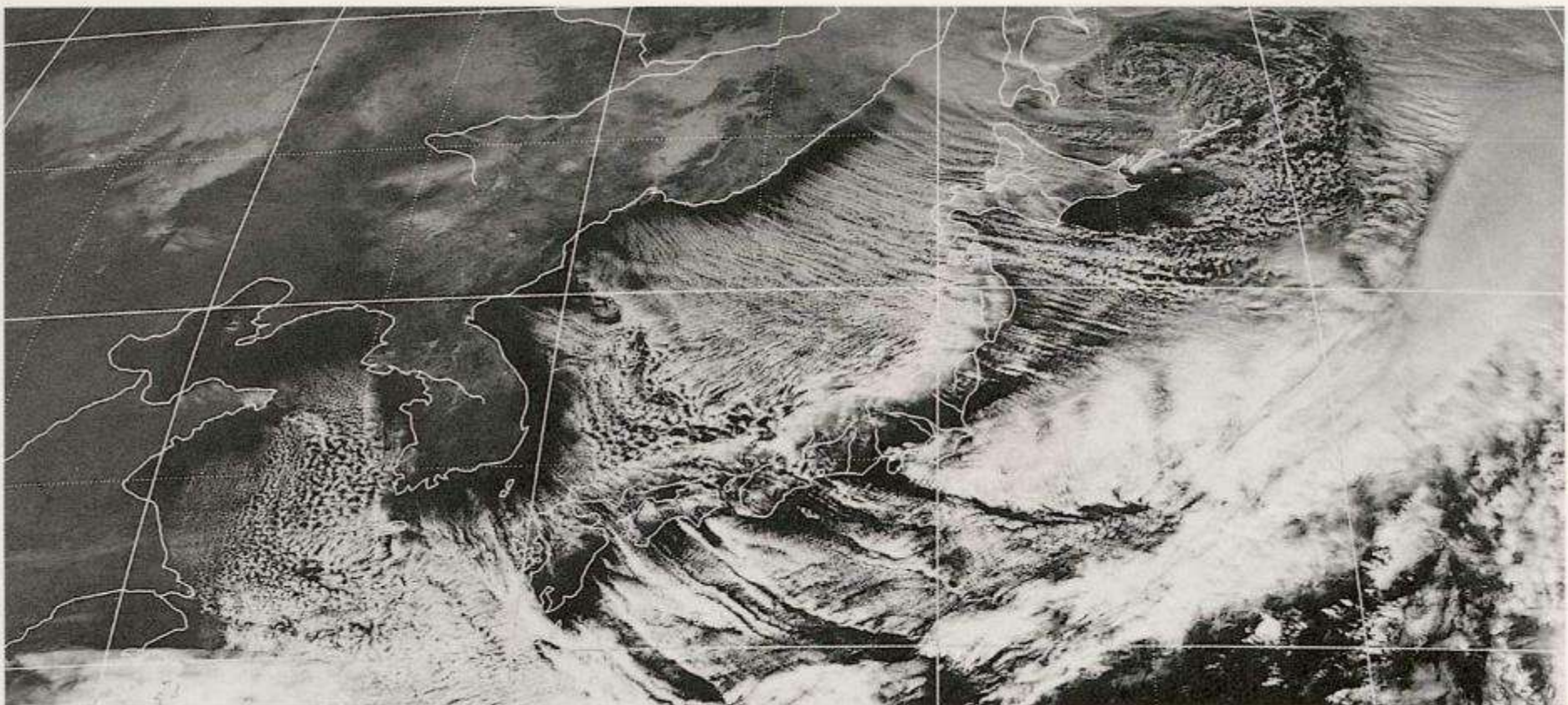
1984年 寒波 大雪2.91m記録 s59

積雪深と根雪期間

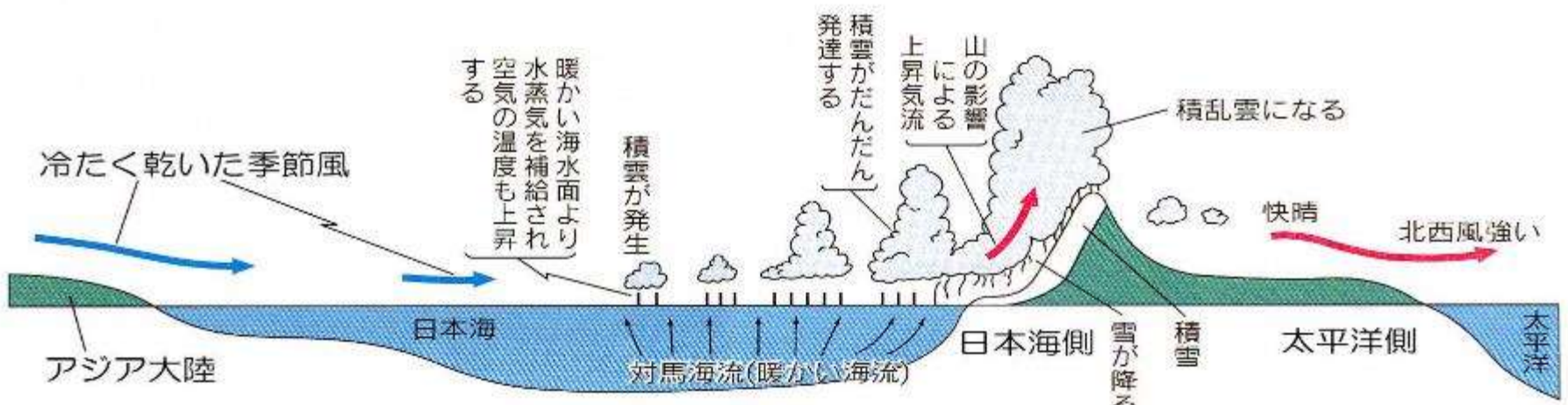
- 最大積雪深の平均 190cm
- 根雪期間の平均 129日



太陽のウォルフ黒点数



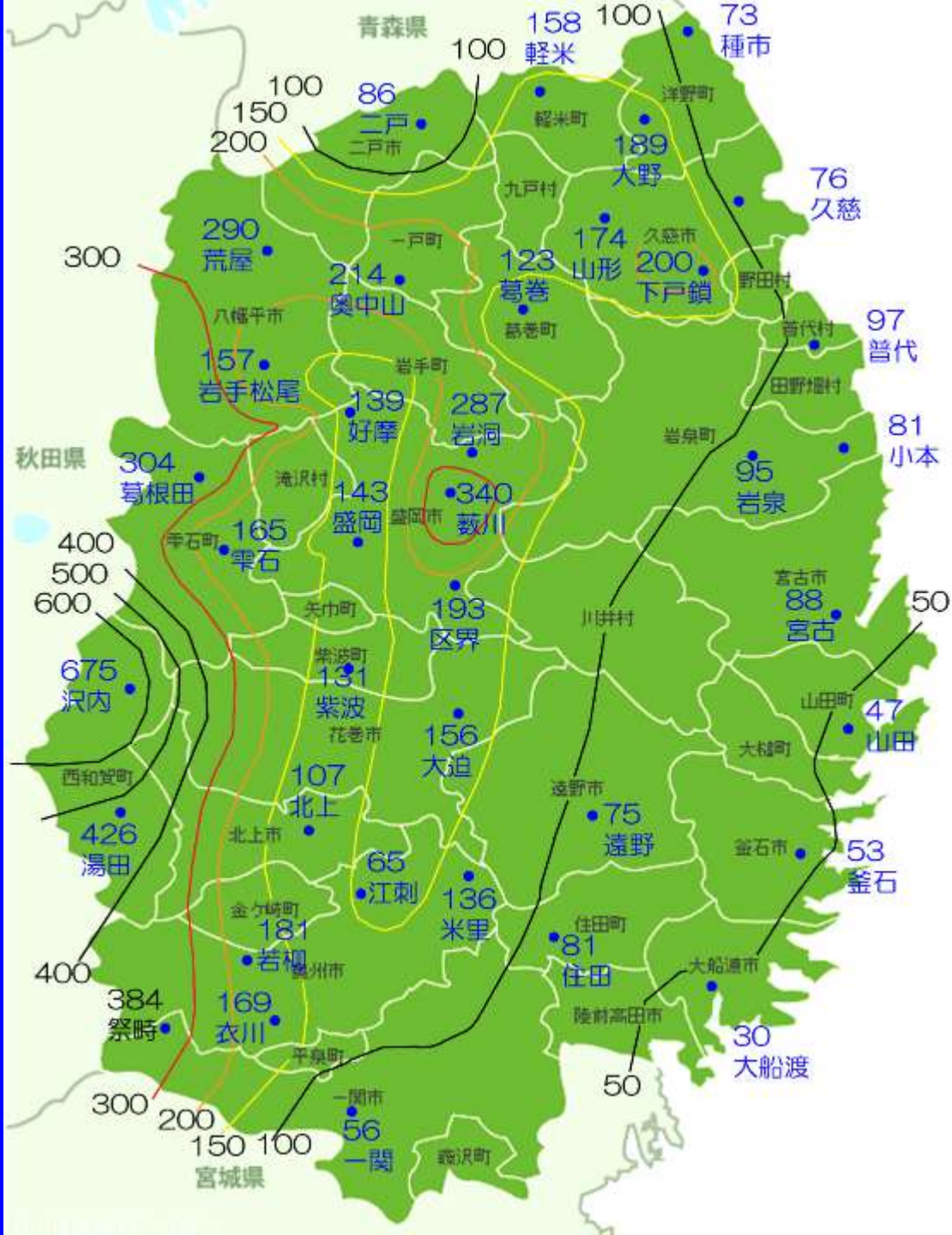
山雪型の雲の分布 昭和59年(1984)1月16日正午
 気象衛星ひまわり受像



図は岩手県の降雪分布

年平均気温 沢内 8.6℃
湯田 9.1℃
1月平均気温 -3.4℃
最低平均 -6.7℃
最高平均 -0.5℃
8月平均気温 21.9℃
最低平均 17.9℃
最高平均 26.7℃

年間降水量は平均 2,300mm。
冷涼多雨である。
冬期間の積雪量は概ね 2メートル。
特別豪雪地帯に指定されている。



雪質・雪量調査



雪国文化研究所が行った最初の調査研究は、沢内ではどこにどのくらい雪が積っているのかを調べました。昭和63年～平成元年の冬期から平成5年～6年まで、連続6冬期間の調査です。山間部の積雪データを得るために、最大積雪深指示計を設置(下図)して積雪深を調べ、また最も積雪の多い時期の3月上旬にスキーで数ルート在林道を踏査(写真)して雪の密度を調べました。これにより下図のような積雪深分布がわかりました。

標高が100m高くなるごとに積雪は約23cm増加する。
沢内地区には平均3億トンの積雪がある。

